

シリーズ「乳がん」④

「抗がん剤の副作用によって起きる外見変化のケア」

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

看護師 西川 貴子

乳がんの薬物療法に されてきています。

は、化学療法(抗がん剤)、ホルモン療法(内分泌療法)、分子標的治療の3種類があります。その中でも化学療法(抗がん剤)は、副作用による苦痛を伴うこと多い治療です。化学療法で使う抗がん剤は、ほとんど分裂して増殖しているがん細胞に作用する薬ですが、正常な細胞も抗がん剤の影響を受けてしまい、そのため様々な症状が副作用として現れます。

国立がん研究センターで、抗がん剤治療中の患者さんに身体症状の苦痛度を聞いたところ、上位20位の中には、外から見える身体症状が多く含まれ、女性患者さんでは外見の変化に関する項目として、「頭髮の脱毛」が1位という結果でした。「治療中に外見が気になって外に出られない」という意見も併せて公表されており、痛みやかゆみなどの身体症状に伴いますが、患者さんにとって苦痛になっていることが重要な問題と認識

師は提案します。

他には、脱毛が始まる時期とウィッグを準備する時期、ウィッグの種類、価格、購入方法など、必要な情報を患者さんに伝えます。また具体的に脱毛していく状況をイメージがつくように説明し、例えば、事前に抜け始める前に髪の毛をショートカットにすることを提案したり、また飛散した髪の毛の処理に、安価に購入できる粘着テープの準備などの提案を行います。髪の毛が抜けた後の、安全なヘアケアについても、シャンプーの方法を説明すると共に、頭皮を清潔にしなければならぬ理由も伝えご理解頂いています。

他には治療が終了し、いつ頃髪の毛が生えてくるのか、また生えそろうか、毛染めやパーマを行っても構わない時期はいつ頃になるのか等、患者さん個々に応じて必要なことを伝え、その人らしく生活が送れるよう支援していきます。

今回は、脱毛を中心とした内容となりましたが、外見の変化は爪や皮膚などにも起こり、日常生活に不便を感じたり、支障が出る場合も多くあります。抗がん剤治療を受け、副作用で外見が変化し、悩んでいる方がいらっしゃるれば看護師にご相談ください。